

「就学前のこどもの育ちに係る基本的な指針」に関する有識者懇談会 御中

2023年1月24日

認定 NPO 法人児童虐待防止全国ネットワーク 理事
高祖常子

意見書

本日、欠席させていただきますので、意見書として以下お伝えさせていただきます。

1. 素案構成イメージについて

前回 2022 年 10 月 13 日の案から再構成くださったとのこと、基本的な考え方が大変わかりやすくなったと思います。皆様のご尽力に感謝します。以下、細かい部分ですが、気になったところを書き出します。

・ p 1 「すべての人で共有したい理念」

下の四角の右上「多様性が尊重され」の本文、「配慮すべき」は削除してはいかがでしょうか。
理由：「配慮すべき背景・特性」と枕詞をつけることによって、配慮が必要か不要かの線引きをするようなイメージがあるため。

・ p 2 ページ下の囲み内

「乳幼児期のこどものくらしと育ち」として「くらし」と入れてはいかがでしょうか。
理由：このページでは、「こどもの育ち」について整理していることはわかっていますが、そのためにも「くらし」を守ることが大切だと思うので。

・ p 3 「こどもの育ちに大切な愛着形成」の囲み、上のコラム内

「その感情を立て直し」として「元通りに」を削除してはいかがでしょうか。
理由：元通りというと、「元」が正しいというようなイメージを感じるため。元通りでなくても、立て直すことができることが大切であるため。

・ p 3 右「まんなかチャート」

地域の空間「子育て担当課の人」は、施策や文化に入るのではないのでしょうか。

・ p 4 点線囲みの下の方

「身体・心・社会（環境・くらし）」と「くらし」を入れてはどうでしょうか。
理由：環境だけ与えられるのではなく、そこで大人や子ども同士が関わり、くらししていくことがベースになるのではないかと思います。

2. 今後に向けて

・ わりやすいメッセージを

p 4 で示されている章立てには、おおむね賛成です。さらに、本指針が「こどもと日常的に

関わる機会がない人も含むすべての人」ということがとても大事だと思っています。その上で、日常関わりが少ない人に、どのように伝えていくかということが大きなカギになると思います。

指針が章立てされ、それぞれに書き込まれていくところで、イメージできる言葉も出てくるのかと思いますが、「具体的にわかりやすく、ポジティブにすべての人に伝えていく」ことが、こどもや子育て家庭へのメッセージにもなると思います。

・ p 4 一番下「提言集（案）」

今回は、指針のとりまとめまでなのかと思いますが。

「例」と書かれているような具体的な内容も、もう少し多くの「例」として盛り込んでいただくと、実現性という部分で少し方向性が明確になるような気がしています。ご検討いただければ幸いです。

・ こどもまんなか社会へのキャンペーンを
(懇談会の議論とはずれるかもしれませんが)

上記のメッセージを広く浸透し、日本全体でこどもまんなか社会を実現していくためにも、こども家庭庁スタートの来年度に、わかりやすいキャンペーン的なものをしかけてはいかがでしょうか。

こども家庭庁のスタートは、こどもまんなか社会のスタートでもあると思っています。ぜひ国民運動的に盛り上げていかれたらと思っています。

ご参考：例えば、虐待防止では、2017年に「愛の鞭ゼロ作戦」という言葉を使いました。

(リーフレットを作成しただけで、印刷配布やポスター掲示などできず、広まりませんでした)